

【ポスター発表】

**福祉分野の就業定着に関する研究****－QWLの視点をふまえて－**

○ 関西福祉科学大学 氏名 柿木 志津江 (4238)

キーワード：福祉分野 就業定着 QWL

**1. 研究目的**

厚生労働省「労働市場分析レポート第21号 福祉分野の雇用動向について（平成25年10月29日）」によると、福祉分野の離職率は16.3%であり、全産業平均の14.4%と比べ高くなっている。福祉分野の職員の離職は利用者の生活に直接かかわるものであることから、就業定着は重要な課題といえる。

本研究は、福祉分野の就業定着に関連する要因について、先行研究をもとに明らかにするとともに、QWLの視点もふまえて検討を試みるものである。

**2. 研究の視点および方法**

福祉分野の就業定着に関連する要因については、論文タイトルに離職意向や就業継続といった就業定着に関するものが含まれた日本国内の文献のうち、福祉職を対象としているものをもとに検討を行った。

QWLについては先行研究からの知見をもとに、福祉分野の就業定着との関連を検討した。

**3. 倫理的配慮**

日本社会福祉学会の「研究倫理指針」に基づき配慮した。

**4. 研究結果**

## ・福祉分野の就業定着に関連する要因

福祉分野の就業定着に関連する要因として、先行研究から以下のような内容が抽出できた。

- ①基本属性（年齢、性別、経験年数等）
- ②健康状態
- ③バーンアウト
- ④やりがいや誇り
- ⑤労働条件（労働時間、勤務形態、賃金等）
- ⑥職場における人間関係
- ⑦役割ストレス

- ⑧入職時の動機
- ⑨組織コミットメント
- ⑩専門性を高める機会
- ⑪パーソナリティ

・ QWL とは

QWLは Quality of Work (ing) Life のことで、労働生活の質と訳される。1960年代初頭にノルウェーやスウェーデンで労働生活の改善活動において注目されたことから、QWLの関心が高まり始め、その後、ILOやEC、OECDといった国際機関の積極的な関与により世界的に展開されるようになった（奥林 2011）。

・ QWL の構成要素

奥林（2011）は QWL を広義と狭義に分け、前者の具体的内容として、①安全・衛生などの物理的作業条件の改善、②賃金・労働条件・諸手当などの雇用条件に関する団体交渉の保障、③病気・失業からの保護、④社会生活における労働者の人格の保護、⑤有意義で満足な労働や参加の促進などをあげている。また、後者については作業様式、作業内容、監督様式などをその内容としてあげ、人間の多様な能力を活用するような新しい作業組織の形成が主張されたと述べている。

・ 福祉分野における QWL に関する先行研究

中野・福渡（2000）は、職務満足と生活満足の関連について検討し、仕事生活に関する満足もしくは不満足が、非仕事生活でのさまざまな局面での満足もしくは不満足と関係していることを示した。

李（2003）は、高齢者福祉施設スタッフを対象とした調査から QWL 測定尺度の開発を行い、QWL 得点が全体的職務満足、職場継続意向および仕事以外の生活満足を有意に説明したことを示した。

畑（2012）は、介護支援専門員へのインタビューを通して、介護支援専門員の仕事に向き合う姿勢とそれを支える要因を検討し、プライベートな時空間は人が仕事をする上でエネルギーやモチベーションをつくりだす基盤であり、よりよいケアマネジメント実践のために「自身の生活の場の安定」が必要であることを示した。

## 5. 考察

先行研究から導き出された、福祉分野の就業定着に関連する要因はさまざまであった。これら要因のなかには、QWLの構成要素や、福祉分野における QWL に関する先行研究で示されたものが含まれており、非労働生活も視野に就業定着について検討する必要性が改めて確認できたといえる。